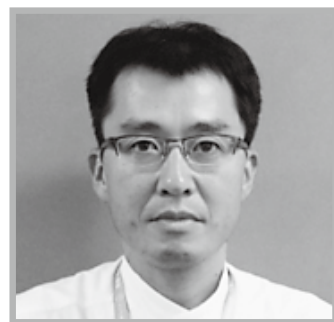


C型肝炎を知ろう



庄原赤十字病院 内科部長

鎌田 耕治

C型肝炎とは

C型肝炎ウイルス（HCV）の感染により起こる肝臓の病気です。現在、日本では約100万人のHCV感染者がいると考えられています。その中には感染が分かっている人や、分かっている人も通院していない人が多いのが現状です。

HCVに感染すると約70%の人が持続感染者となり、慢性肝炎、肝硬変、肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、自覚症状がないまま病気が進むことがあります。HCVの感染が分かれば、症状が無くても必ず詳しい検査をして、治療を含めて対処を検討する必要があります。



C型肝炎の検査

【感染について】

HCVに感染しているかどうかを調べる検査がHCV抗体検査です。HCV抗体陽性の場合、HCVに一度は感染したことを意味しますが、現在も持続感染をしている人と、治癒した人やウイルスのいない人が含まれます。そこで、次に精密検査として、HCV核酸増幅検査（HCV-RNA定量検査）という、血液中にHCV遺伝子があるかどうかを調べる検査を行います。陽性であれば、現在HCVに感染していることを意味します。さらに、HCVの型を調べるセログループ（人が持つ抗体の種類）あるいはゲノタイプ（ウイルスの遺伝子情報）を測定し、これらを組み合わせて治療方法や治療効果を予測します。

【肝臓の状態について】

現在の肝臓の炎症の程度をみるのがAST（GOT）値やALT（GPT）値※です。高い値が持続すると、肝臓の炎症が強くなり、肝炎が進行しやすいといえますが、低くても病気が進行していないわけではありません。次に、血小板数を測定し、肝臓病の進行や線維化を検査します。また、肝臓の状態や肝がんの合併を知るためには腹部超音波検査やCT検査、MRI検査などの画像検査を行います。

C型肝炎の治療

1992年以降、インターフェロンという注射薬を基本にした治療が行われてきました。その後、投与期間の延長や併用薬などで、比較的高い効果が期待できるようになりましたが、人により効果が異なることや、副作用が強いことなどで治療できない患者さんが多いのが問題でした。

しかし、2014年9月から、インターフェロンを使わない飲み薬だけの治療「インターフェロンフリー治療」が登場しました。現在では、12週間の飲み薬で95%以上の人がHCVを排除できるまで進歩しています。しかも、副作用も軽微で少なくなっています。

HCV抗体検査を受けたことがない方は一度検査を受けることをお勧めします。HCV抗体陽性がすでに判明している方は精密検査を受けましょう。詳しくは医療機関にご相談ください。



※AST・ALTは、健康診断や医療機関で広く行われている検査です。これらは肝臓の細胞に多く含まれ、細胞が壊れたときに血液中にでてくる酵素です。